

令和6年度

聴講生の皆さんから寄せられた 感想の一部を紹介します

☆☆小学校で聴講された皆さんの感想☆☆

梅田さん（男性 扶桑東小学校で6年生の図画工作を受講）

扶桑東小学校6年1組には先生と児童で作った掲示物が後ろの壁、天井に約100枚あります。その中で私の好きなものは「グループのみんなでお互いのいいところをほめ愛しましょう」です。

答えは対話の先に思考の作戦基地があり、アンテナは高く、視野は広くするべきです。「耳は大なるべし、口は小なるべし」のことわざがあります。情報は広範囲から得る、人に語るには控えめにすることがあります。

図工教室では脳を柔らかくし、記憶する海馬に刺激があって、想像する能力も高まります。

「おいで、おいで」と門戸を広げてくれるのを利用しない手はありません。鉄でもゴムでも経年劣化します。「仲間に入れて」といって扉を叩くことをお勧めします。暖かく迎えてくれることまちがいなし。脳・体の劣化はフレイルです。

現状6年生ではテープカッターを作りました。側板にデザインを考えるのに苦労しました。糸鋸で自由に測定を切るが、デザインで切った側板がマッチせず、ちぐはぐの絵となりました。市販のものは何も描いていないので、絵が描いてあるだけでも良しとするが、考えることは苦痛です。唯一無二の作品ができ、愛着のある作品となりました。

次に書道、絵画の作品印「梅田」を象形文字で作りたいかったが、複雑すぎて収まらず、細かい線ができず、断念しました。簡単な「う」の一文字に決定し、まずはやってみてわかる。新しいことの挑戦は苦労するが楽しい。今後ともよろしくご指導ください。

奥川さん（女性 高雄小学校で5年生の外国語活動を受講）

昨年に続き、今年度は1学年上の5年生の英語の授業を選択させていただきました。5年生の英語は昨年までの授業と比べると見ないで話す事ができる英語が求められ、ユニットが変わる毎にスピーキングとヒアリングのテストがあります。

そして、後期に入るとiPadを貸与してもらいました。渡された時はとてもうれしかったのですが、なかなか使いこなすことができず、困ることもありました。いつから使用しているのか聞くと、もう低学年から使用していると言われ、今どきの子供たちのスピードについていくことは大変だと実感しました。

私は聴講生としては英語ばかり選択しているのでわかりませんが、学校の授業としてはiPadを使用しながら進めていくことが推奨されているらしいです。5年生ともなると、もう結構みんな大人で、それぞれの個性も出てきています。私は3年生の時から3年間同じ子どもたちと接していますが、子どもたちにも迷惑をかけるかもしれないと思うと、なかなか聞くこともできません。

一応、それでも来年度はまた6年生の授業に挑戦してみたいと考えており、どうなることかと不安ですが、子どもたちや先生に教えてもらいながら、自分なりに成長していきたいと思っています。

千田さん（男性 扶桑東小学校で2年生の書写・図画工作を受講）

扶桑東小学校の皆様、特に2年1組の皆さんは1年にわたり、大変お世話になりました。

令和5年の暮れに脳梗塞を発症し、2ヵ月入院していました。そのため、右手と右足に後遺症で麻痺が残り、それを改善するため週に図画工作2時間、書写1時間の聴講生として勉強・通学させていただきました。

当初は、氏名を書くにも大変でしたが、普通に文字が書けるようになりました。今後は、普通に走れるように体力をつけたいと思います。

1年間、ありがとうございました。